

H25.12.17の福島民報記事として震災直接死と1000日過ぎた震災関連死(原発事故含む)の比較があった。浜通5町(浪江、双葉、大熊、富田、楢葉)と3市(いわき、南相馬、相馬)を見るとき3市に比べ死亡率は8.48倍、浪江だけでも4.5倍と高い。これらは明らかに原発事故に伴う避難が長引いていることに原因がある。浪江町の復興計画の実現は避難している町民は言うに及ばず、周囲の市町村に与える精神的な影響は大きく年明けを契機、計画を実行すべきである。

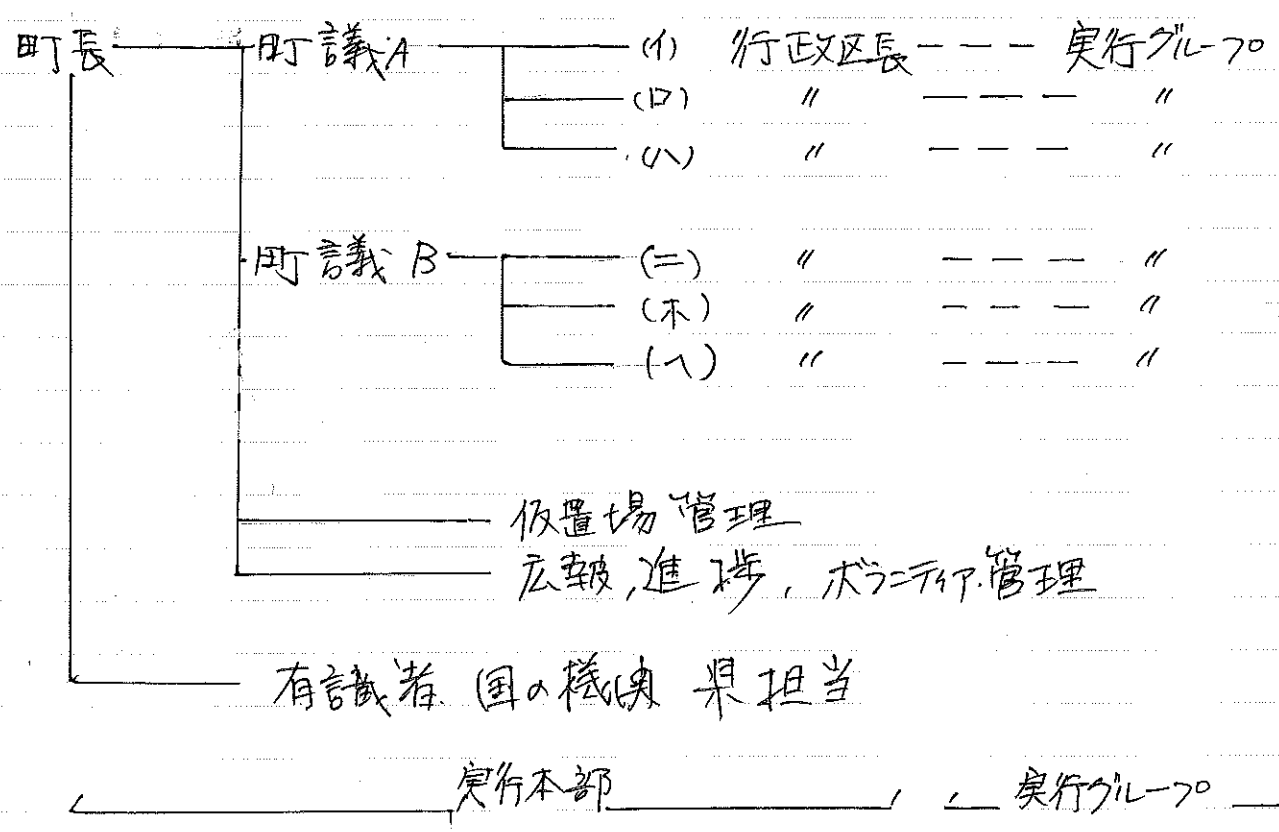
計画の進め方

初期	中期	拡大
H26.3月~27.2月 希望と期待 「戻れるかも」	H27年3月~28.2月 加速と納得 「なるほど納得」	H28.3月~29.2月 持続、帰るおかし 「口みで拡大」

- 町づくり計画を具体的に進める非常時体制
この体制は期間限定、体制が固まった発展的に解消する

震災と原発事故から
避難している町民は
限界に来ている。
今浪江町民一丸で
立ち上がる時。
役場から提案してほしい。

組織



<本部の役割>

- 除染の評価 線量測定とマップ作り 1msv以下 緑
1~5msv以下 青
- 都市計画, 企業誘致, 社会基盤整備 新たな産業創出
行政の安定
- 在来産業の早期帰還

<実行グループの役割>

- 各行政区ごとに実行グループを組織。本部の指示に従って
各区長が実行責任者で町づくりを実行する。
- 人のために「ゆい」で行おう。